

## 地域実験動物研究会の活動紹介

現在、地域の実験動物研究会として岡山実験動物研究会以外に9つの研究会が活動している。各研究会事務局にお願いして、昨年度から今年度にかけての活動状況を教えて頂いたので、6つの研究会の活動内容を順不同で紹介いたします。詳細な内容をご希望の方は事務局にお問い合わせ下さい。

### 信州実験動物研究会

事務局：信州大学医学部附属動物実験施設内  
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1  
☎0263-37-2696

松本清司

e-mail:kematsu@sch.md.shinshu-u.ac.jp

中島敦

e-mail:nakajimaats@csk-rp.co.jp

#### ◎第53回信州実験動物研究会勉強会

日時：1998年7月3日(金) 15:00~17:00

場所：信州大学農学部 11番教室

「スunksの遠心性脳神経核について」

鬼頭純三先生(元・名古屋大学医学部教授)

#### ◎第54回信州実験動物研究会勉強会

日時：1998年11月13日(金) 15:00~17:00

場所：伊奈技術形成センター(伊奈インター工業団地内)

「ダイオキシン類の毒性について」

広瀬明彦先生(国立医薬品食品衛生研究所・総合評価研究室)

#### ◎第19回信州実験動物研究会総会

日時：1999年3月5日(金) 14:30~14:45

#### ◎第17回研究発表会

日時：1999年3月5日(金) 14:50~17:00

場所：信州大学農学部 11番教室

上伊那郡南箕輪村8304

☎0265-72-5225

演題：

1. 「着床前ラット卵子における[U-14C]グルコースからの脂質分画への取込み」  
中村由美(信州大学農学部動物発生工学研究室)
2. 「スナネズミ(Meriones unguiculatus)卵子の卵管細胞との共培養による胚発生」  
猿渡豪(信州大学農学部動物発生工学研究室)
3. 「SD(Sprague-Dawley)ラットにみられた白血球増多症」
  - 1) 血液形態学的特徴  
松下宗史、鷯沢耕二、友澤寛、松本清司(信州大学医学部)
4. 「SD(Sprague-Dawley)ラットにみられた白血球増多症」

#### 2) 生化学的・組織学的特徴

武藤信一、林守道、前田奈津江(キッセイ薬品・安全性)

松下宗史、友澤寛、松本清司(信州大学医学部)

5. 「ミニプタ頸静脈内カテーテル留置による連続採血法の6年間の経験」  
堤秀樹、田辺博、片桐公一(CSKリサーチパーク)
6. 「バルーンカテーテルを用いた血管内皮傷害性ミニプタ動脈硬化症モデル作出に関する検討」  
荒川仁、堤秀樹、谷川学(CSKリサーチパーク)
7. 「In vitro代謝実験のトキシコキネテックスへの応用」  
一ノ瀬千恵子、山口裕子、本島雅彦、井猛(イナリサーチ)
8. 「幼若ラットへの反復静脈内投与方法」  
栗林寿光、松本清、松田章孝、武藤紀生(イナリサーチ)
9. 「卵管結紮ラットの性周期および交尾行動」  
斧研雅子、田中守、牛丸忠士、武藤紀生(イナリサーチ)

#### ◎第55回信州実験動物研究会勉強会

日時：1999年7月16日(金) 15:00~17:30

場所：信州大学医学部東棟9階会議室

演題：

1. 「実験動物の今昔」  
斎藤学先生(メルシヤン・クリンテック/元予研)
2. 「実験動物用飼料の改良の変遷」  
岩田寿雄先生(オリエンタル酵母)
3. 「実験動物ケージの変遷と今後の方向」  
夏目克彦先生(夏目製作所)
4. 「ConA誘導肝炎におけるIFN- $\gamma$ とIL-6の役割」  
-抗体とノックアウトマウスの長所と短所-  
田川陽一先生(信州大学医学部)

#### ★第21回交歓スポーツ大会

日時：1998年10月3日(土)13:00~17:00

場所：大芝高原・野球場(南箕輪村)

### 筑波実験動物研究会

事務局：筑波大学動物実験センター

〒305-0006 つくば市天王台1-1-1

☎0298-53-3386 FAX:0298-53-3380

八神健一

e-mail:kenyagam@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

#### ◎第6回総会

日時：1998年3月11日(水)

場所：科学技術庁 筑波研究交流センター

議題：平成9年度事業報告、平成10年度事業計画  
ほか

シンポジウム「動物実験の倫理 その判断基準」

「動物実験と研究者の責任」

前島一淑(慶應大学医学部)

「国立大学における倫理的判断基準の例」

伊藤勇夫(千葉大学医学部)

「民間研究所における倫理的判断基準の例」

笠井一弘(ヘキスト・マリオン・ルセル(株))

◎第15回講演会

日時：1998年7月24日(金) 15:30~16:30

場所：理化学研究所ライフサイエンス筑波研究  
センター大会議室

演題：「動物実験代替法-培養細胞による細胞毒  
性試験法の開発とその大規模バリデーション」  
大野忠夫(理化学研究所ジーンバンク室)

◎第7回セミナー

日時：1998年9月10日(木) 17:00~18:30

場所：筑波大学医学系棟2階大会議室

演題：

「始原生殖細胞(PGCs)の移植によるニワトリ生殖  
系列キメラの作製」

田島淳史(筑波大学農林学系)

「サル類生殖細胞の体外操作技術の確立」

山海直(感染研・霊長類センター)

◎第5回技術研修会「ブタの基本的実験手技」

日時：1998年9月25日(金)15:00~18:30

場所：筑波大学動物実験センター

講師：鳥生厚夫(農水省家畜改良センター)ほか  
内容：飼育管理法、保定法、採血法、麻酔法、  
その他

◎第7回筑波実験動物研究会総会

日時：1999年3月19日(金) 14:30~17:00

場所：科学技術庁 筑波研究交流センター

議題：平成10年事業報告、平成11年事業計画ほ  
か

ミニシンポジウム「新たに開始される実験サル類  
の輸入検疫」

「サル類の輸入検疫に関する農水省省令の考え  
方」

筒井俊之(農水省畜産局)

「サル類のBウイルス感染に関する最近の知見」

佐藤浩(長崎大学医学部)

北陸実験動物研究会

事務局：福井医科大学医学部附属動物実験施設  
内

〒910-1193 福井県吉田郡松岡町下合  
月23-3

☎0076-61-8425(2581, 2584)

FAX:0076-61-8124

e-mail:lara@med.kanazawa-u.ac.jp

URL：http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med2/  
38/lara.html

◎第2回総会および第7回研究会

日時：1998年4月18日(土)

場所：金沢大学医学部記念館

講演：「ICHの成果を踏まえた医薬品の安全性試  
験法」

米澤秀利(小野薬品工業株式会社 福井安  
全性研究所)

◎機関紙(第8号)ニュースレター発行

(1998年7月1日)

◎第8回研究会

日時：1998年7月1日(水)

場所：富山医科大学医薬棟 セミナール室

講演：

1)「種々の疾患モデル動物の原因(遺伝子)解析」  
安居院高志(名古屋市立大学医学部実験動物  
研究教育センター)

2)「野生生物を用いた環境汚染のバイオモニタリ  
ング」

星英之(富山医薬大学動物実験センター)

3)「海外視察報告…米国の医学実験用霊長類セン  
ター」

山本博(富山医薬大学動物実験センター)

◎実験動物技術者協会との合同懇談会

日時：1998年9月19日(土), 20日(日)

場所：石川県志賀町志賀の郷

◎スペースコロケーションシステムによる国立大  
学動物実験施設職員 高度技術研修の受講

日時：1998年11月13日(金)

場所：金沢大学総合教育棟D4講義室

◎機関紙(第9号)ニュースレター発行

(1998年11月17日)

◎第9回研究会

日時：1998年11月28日(土)

場所：金沢医科大学医学部基礎棟3階セミナー室  
講演：

1)「石川県能登半島の住民と野鼠が保有する紅斑  
熱郡リケッチアに対する抗体について」  
及川陽三郎、池田照明(金沢医科大学 医動  
物学教室)

2)「妊娠時免疫の仔動物能動免疫への影響」  
王秀霞、山口宣夫(金沢医科大学 血清学教  
室)

3)「GFPマーカーによる効率的なトランスジェニ  
ックマウスの系統の樹立」  
小泉勤(福井医科大学医学部附属動物実験施  
設)、玉巻伸章(同、第1解剖学)

4)「金沢大学動物実験施設における近交系マウス

の受精卵凍結作業の現状」

本田登美夫、二階堂浩子、中村由季子、内本淳(金沢大学医学部附属動物実験施設)

5) 「強酸性電解水による動物実験施設の衛生管理」

向川市郎、前田秀之、加藤秀次、宮越久行、糸崎悦子、小泉勤(福井医科大学医学部附属動物実験施設)

◎機関紙(第10号)ニュースレター発行

(1999年7月5日)

◎第3回総会および第10回研究会

日時：1999年7月10日 総会 13:30より

講演 14:10より

懇親会 講演終了後

場所：金沢大学医学部記念館

連絡先：金沢大学医学部附属動物実験施設

☎076-234-4241(橋本)

講演：

「当教室におけるモルモットを用いた実験について」

明茂治、藤村政樹(金沢大学第3内科)

「トランスジェニックマウスモデルを用いたウイルス性肝発癌機構の解析」

中本安成、金子周一、小林健一(金沢大学第1内科)

「B細胞の免疫寛容と自己抗体産生のCD19による調節」

稲沖真、佐藤伸一(金沢大学皮膚科)

Thomas F. Tedder (Duke大学医療センター免疫)

九州実験動物研究会

事務局：九州大学大学院医学系研究科附属動物実験施設内

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

毛利資郎

☎092-642-6147 FAX:092-642-6165

e-mail:kame3@qda.med.kyushu-u.ac.jp

◎実験動物セミナー

日時：1998年6月15日(月) 16:00~18:30

場所：九州大学医学部同窓会館(3階大会議室)

内容：

1. 「動物の保護及び管理に関する法律」改正の動きについて

毛利資郎(九州大学医学部動物実験施設)

2. 「いわゆる感染症新法について」

吉川泰弘(東京大学農学生命科学研究科)

(厚生省公衆衛生審議会(伝染病予防部)会基問題検討小委員会委員、前国立予防衛生研究所筑波医学霊長類センター所長)

◎第16回九州実験動物研究会総会

(第18回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会と共同開催)

日時：1998年11月14日(土)、15日(日)

場所：熊本市国際交流会館「みゆき」

世話役：淵上勝野((株)バナファーム・ラボラトリーズ)

特別講演：

1. 「医師からみたAAT(アニマル・アシステッド・セラピー:動物介在療法)」

高野正博(医療法人高野会 高野病院)

2. 「新薬開発と実験動物」

出井博之((株)バナファーム・ラボラトリーズ)

◎第17回九州実験動物研究会総会(予定)

(第19回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会と共同開催)

日時：1999年11月13日(土)、14日(日)

場所：グリーンピア南阿蘇 大ホール

〒869-1412 熊本県阿蘇郡久木野村久石

特別講演：

第17回九州実験動物研究会総会

1. 「マウスの生殖工学技術について」

中渕直巳(熊本大学動物資源開発研究センター資源開発分野 教授)

2. 「マウスの顕微受精および核移植クローン技術について」

小倉淳郎(国立感染症研究所獣医科学部実験動物開発室 室長)

第19回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会

1. 演題:未定

辻隆之(東京大学大学院新領域創成科学科 教授)

2. 「植物の智慧の解読とその利用」

戸田義宏(九州東海大学農学部農学応用植物学研究室 教授)

静岡実験動物研究会

事務局：〒431-3124 浜松市半田町3776・C-212 西川哲

☎053-435-3629 (FAX兼用)

E-mail:tnishika@hama-med.ac.jp

当研究会では、毎年、1. 研究発表会、2. 総会、3. 研修会の開催と年に2号会報を発行しています。

平成10年度と11年度の活動状況および予定を紹介致します。

1. 研究発表会

年に1度(6月下旬か7月上旬頃)に開催されています。昨年度と今年度のプログラムは以下の様です。

なお、両会とも技術研修会とのジョイント形式で

行われ、発表はすべてポスター形式でした。

◎第26回研究発表会

日時：平成10年7月3日(金)

13:10~14:40 発表

14:40~16:00 質疑・討論

場所：静岡県立大学 大講堂ホワイエ

進行：山本利男 (財)食品農薬品安全性評価センター

講演：ポスター形式の発表会

1. テレメトリーシステムによるイヌのトレーニング効果の追跡(心拍数および血圧値)  
CSKリサーチパーク 御殿場プランチ  
○佐野肇、熊谷栄二、杉本善彦、蟹沢幸一
2. ラット生殖発生毒性試験における静脈内持続注入法適用の検討  
(株)ボゾリサーチセンター 御殿場研究所  
○土屋良治、松本裕、小川恵美、牧野政之、石田茂
3. 毒性試験における静脈内インフュージョンの有  
用性およびその技術の検討  
(株)ボゾリサーチセンター 函南研究所  
○渡辺大、赤木圭介、熊原道代、井出誠、  
長島吉和
4. Freundのアジュバント併用でのマウスラット  
PCA反応系による低分子化合物の免疫原性評価  
三共(株) 安全性研究所  
○村松敬子、味岡素子、木村努、新海健吉
5. DA系ラットを用いた聴覚毒性の評価  
ファイザー製薬(株) 中央研究所  
○加藤まり子、飯高健、深澤洋史
6. 短期大腸発がん評価法としてのaberrant crypt  
foci法：ラット腸管上皮細胞中hexosaminidase  
酵素組織化学的染色法  
三共(株) 安全性研究所  
○佐藤里子、渡辺真弓、松浦利雄、真鍋淳、  
高岡雅哉
7. フローサイトメトリーによる肝細胞内DNA量の  
測定  
三共(株) 安全性研究所  
○袴田志野婦、渡辺真弓、矢本敬、高岡雅哉、  
真鍋淳
8. 実験動物を用いた安全性試験におけるC-反応  
性蛋白検出法の導入  
三共(株) 安全性研究所  
○村松敬子、葛野加奈子、加藤かおり、  
水出美里、真鍋淳
9. エチルニトロソウレアおよびマイトマイシンC  
のラット精巣細胞を用いる小核試験の検討  
(財)食品農薬品安全性評価センター  
○板倉真由美、嶋田佐和子、永井美穂、中嶋圓
10. マウス卵子の減数分裂の進行と染色体異常を指

標とした化学物質の安全性評価

1)岐阜大学大学院連合農学研究所、2) (財)食品農  
薬品安全性評価センター、3) 静岡大学農学部  
○田中亮太<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>、笹浪知弘<sup>2)</sup>、鳥山優<sup>3)</sup>、森誠<sup>3)</sup>

11. ウズラ黒色初毛致死突然変異遺伝子(Black at  
hatch: BH) は色素細胞で発現している  
静岡県立大学、静岡大学理学部生物地球環境科  
学科

○中村明、塩尻信義、佐藤博

◎第27回研究発表会

日時：平成11年7月2日(金)

13:10~14:20 発表

14:20~14:40, 15:30~16:30

質疑・討論

場所：静岡大学 大学会館ホール

講演：ポスター形式の発表会

1. 新しいミュータントの適応(ミュータント系の  
確立)について  
○中村明
2. Crj:CD(SD) IGSラットの長期飼育における生物  
学的背景データ  
ー生存率、体重推移、摂餌量、一般状態及び剖  
検ー  
(株)ボゾリサーチセンター 御殿場研究所  
○平川和孝、北村泰樹、小松真彦、小川竜也、  
岡崎和志、諏訪浩一、岡崎修三
3. Crj:CD(SD) IGSラットの長期飼育における生物  
学的背景データ  
ー血液学検査、血液化学検査ー  
(株)ボゾリサーチセンター 御殿場研究所  
○北村泰樹、平川和孝、市川裕子、小林淳一、  
斉藤準、石井孝広、岡崎和志、諏訪浩一、  
岡崎修三
4. 膝窩リンパ節測定法(Popliteal lymph node  
assay, PLNA)による低分子化合物のアレルゲ  
ン性評価  
三共(株) 安全性研究所  
○間哲生、木村努、村松啓子、新海健吉
5. マウス能動アナフィラキシー(ASA)における  
系統差  
三共(株) 安全性研究所  
○松村啓子、間哲生、木村努
6. 自動血球計算装置を用いたラット精子数の測定  
法の検討  
科研製薬(株) 安全性研究所  
○伊海正徳、渋谷幸二、岡村早雄
7. マウス始原生殖細胞(PGC)のテラトーマ形成  
におけるPGCと胎仔精巣細胞の関わり：系統  
間再構成精巣を用いた解析  
静岡大学・理・生物、筑波ライフサイエンス・  
基礎研究部

- 野口基子、河西利治、丹羽勝利、  
笹岡由美子、常定正信、日下部守昭
8. ネコ下部尿路疾患に対する飼料の検討  
(株)CSKリサーチパーク 御殿場ランチ  
○宮口真由美、田中慶康
2. 総会（特別講演）
- ◎第28回総会  
日時：平成10年12月4日（金）  
場所：静岡県立大学 小講堂  
特別講演：  
「神経毒性ガイドラインの動向と神経病変評価上の問題点」  
(財)食品薬品安全センター 泰野研究所  
今井清先生  
「内分泌攪乱物質研究とその試験法」  
国立医薬品食品衛生研究所  
井上達先生
- ◎第29回総会（予定）  
日時：平成11年11月26日（金）  
場所：静岡県立大学 小講堂  
特別講演：  
「野生動物の人工保育」  
静岡市日本平動物園  
八木智子先生  
「ラット・マウスの人工哺育法ーラット乳仔の自  
動人工哺育法を中心にしてー」  
岡山大学医学部附属動物実験施設  
干場純治先生
3. 技術研修会  
研修会は年に2～3回開催されている。
- ◎平成10年度第1回研修会  
日時：平成10年7月3日（金）  
15:00～16:10 発表  
16:10～16:40 質疑・討論  
16:40～17:00 まとめ  
場所：静岡県立大学 小講堂  
進行：矢鍋誠 日本エスエルシー(株)  
講演：ポスター形式の発表会  
実験動物の飼育管理技術研修会  
「マウス・ラットの飼育管理」
1. マウス・ラットの飼育管理について  
旭化成工業（富士）ライフ総研  
○関、落合、守屋
  2. マウス・ラットの飼育管理について  
協和発酵工業(株) 医薬総合研究所  
○遠藤
  3. 実験動物生産施設におけるマウス・ラットの飼  
育管理  
日本エスエルシー(株)  
○酒井隆敏
  4. 飼育器材の紹介
- (財)食品農医薬品安全性センター  
○各務進、勝俣勇、山本利夫
5. マウス・ラットの飼育管理  
(株)CSKリサーチパーク  
(中外製薬(株)富士御殿場研究所)  
○中川嗣郎、新谷参郎
  6. 三共(株)安全性研究所におけるマウス・ラットの  
飼育管理  
三共(株)安全性研究所  
○斎藤有司、鈴木明、柴田勝好、松浦利雄
  7. マウスおよびラットの飼育管理  
(株)ボゾリサーチセンター 御殿場研究所  
○片平勝也、寺戸康徳、勝又斉、内田秀和、  
鈴木通弘、国分ゆき子
  8. マウス・ラットの飼育管理について  
科研製薬(株) 安全性研究所  
○堀口力
- ◎平成10年度第2回研修会  
日時：平成10年7月24日（金）  
場所：静岡県立大学 薬学部実習室  
講師：信州大学医学部 附属動物実験施設  
松本清司先生  
実験動物の骨髄検査に関する研修会  
講義とグループに分かれて骨髄標本の作成と鏡検
- ◎平成10年度第3回研修会  
日時：平成10年9月11日（金）  
場所：静岡県立大学 小講堂  
講師：静岡理工科大学  
常吉俊宏先生  
分子生物学的手法に関する研修会（講演会）  
「ジーンターゲットング等の21世紀実験動物技  
術に向けて」
- ◎平成11年度第1回研修会  
日時：平成11年7月2日（金）  
14:40～15:30 発表  
15:30～16:30 質疑・討論  
場所：静岡大学 大学会館ホール  
講演：ポスター形式の発表会  
技術研修会：採血方法の実際と工夫
1. ラット及びマウスの採血方法、幼若ラットにお  
ける頸静脈採血  
(株)ボゾリサーチセンター 御殿場研究所  
○小川竜也、塩谷真、市川裕子、小林惇一、  
斉藤準、永原美樹、石井孝広、岡崎和志、  
諏訪浩一、望月雅裕
  2. 採血方法の実際と工夫  
旭化成工業(株)  
ライフサイエンス総合研究所 安全性研究所  
○飯塚和彦、小林和浩、梅原重敬
  3. 採血方法の実際と工夫  
(財)食品農医薬品安全性評価センター

○杉山豊、北島省吾、勝俣勇、各務進、  
村田共治

4. 動物実験における採血方法の実際と工夫  
三共(株) 安全性研究所

○村松 勉、大西和、原田幸恵、小松里美

5. 実験動物(マウス・ラット・イヌ・ウサギ)に  
おける採血手技の実際

協和発酵工業(株) 医薬総合研究所

○増山律子、浅松隆久、佐野純一

◎平成11年度第2回研修会(予定)

日時：平成11年8月27日(金)

場所：静岡県立大学 小講堂

講師：(財)実験動物中央研究所 安東潔先生

内容：

「化学物質の神経毒性に関する行動的評価法」

第1部 (13:00~14:30)

1. 神経行動毒性試験に関するOECD及びEPAのガイドライン
2. わが国の対応
3. 第一次近似としての肉眼による徴候観察
4. 客観的定量的データの得られる自発運動量測定
5. 感覚機能障害の検出
6. その他

第2部 (15:00~17:00)

1. EPAのFunctional Observation Batteryの解説  
ビデオ供覧及び解説

解説：(株)ボゾリサーチセンター研究部部長  
岡崎修三

2. 上記ビデオに関するコメント及び自由討議

4. 会報

会報は年に2回、6月と11月に発行されています。  
昨年度と今年度の1号の目次を紹介します。

○会報第25巻1号(1998)

目次

巻頭言：幹事 社領 聡

《特別講演抄録》

Emerging diseasesとしての寄生虫病：

東京大学医科学研究所寄生虫研究部 小島荘司

《学術論文》

パートレットの等分散検定に対する一考察

一少数例を用いた毒性試験データから一

財団法人食品農医薬品安全性評価センター

小林克己、三浦大作、渡修明、山本利男、

庄子明徳、北島省吾

化工部農薬安全性評価監督検閲中心 謝明、

安麗、姚宝玉

東京農業大学 高崎興平

《文献紹介》

化学物質の毒性試験ガイドライン

異数性誘発物質の検出手順：英国環境変異原学

会ワーキンググループからの提言

《用語解説》

《会務報告》

第27回静岡実験動物研究会総会

役員・幹事会議事録(第95回、第96回)

運営検討委員会

研修会報告

お知らせ

会員の異動

会 則

《その他》

会報投稿規定

編集後記

○会報第25巻2号(1998)

目次

巻頭言：副会長 木村良平

《学術論文》

定量データに対する統計処理法の選択：

財団法人 食品農医薬品安全性評価センター

小林克己

《一般講演抄録》

第26回研究発表会

《用語解説》

《会務報告》

役員・幹事会議事録(第97回)

研修会報告

お知らせ

会員の異動

会 則

《その他》

会報投稿規定

編集後記

○会報第26巻1号(1999)

目次

巻頭言：幹事 山本利男

《特別講演抄録》

神経毒性ガイドラインの動向と神経病変評価上の  
の問題点：

財団法人 食品農医薬品安全性評価センター

今井清

内分泌攪乱化学物質研究とその試験法：

国立医薬品食品衛生研究所 井上達

現代感染症事情：岐阜大学農学部 平井克哉

《用語解説》

神経ときほぐし標本

リケッチア、Q熱

ホルモン受容体

《会務報告》

第28回静岡実験動物研究会総会

役員・幹事会議事録(第98回、第99回)

研修会報告

静岡実験動物研究会に関するアンケート調査結果  
お知らせ  
会員の異動  
会員名簿  
会 則

〈その他〉

会報投稿規定  
編集後記

関西実験動物研究会

事務局：京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設内  
〒606・8501 京都市左京区吉田近衛町  
山口千佳子  
☎075-753-4489 FAX:075-753-4409  
E-mail cyamachi@ip.media.kyoto-u.ac.jp

平成10年3月、6月、12月、平成11年3月、6月、9月に、合計7回の研究会（総会を含む）を開催しました。

例年、3月は総会と評議員会を開催して、12月の研究会には会員の研究発表の場を設けています。いずれの研究会においても2～3名の招待者による講演が行われています。12月以外の研究会では維持会員ニュースとして関西実験動物研究会の維持会員から実験動物あるいは動物実験に係る業界トピックスが紹介されています。

◎第15回総会及び第57回研究会

日時：平成10年3月6日（金）  
場所：京大会館

講演：マウスの新たな利用法を求めて

1. マウス突然変異を利用した形態形成機構の解析  
城石俊彦（国立遺伝学研究所・遺伝実験生物保存研究センター）
2. ヒト染色体導入マウスの作製とその応用  
押村光雄（鳥取大学医学部細胞工学）

維持会員ニュース：

「毒性病理学の分野における精巢毒性の検索方法」  
（株）実医研

「RABITON Research System for Future drug Development」

（株）ラビトン研究所

◎第58回研究会

日時：平成10年6月19日（金）  
場所：大阪大学コンベンションセンター  
講演：実験動物を用いた新興細菌感染症の研究  
と伝染病予防法の改正

1. ヒトにおけるHelicobacter感染と動物モデル  
喜多正和（京都府立医科大学実験動物室）

2. マウスモデルにおける腸管出血性大腸菌O157感染の病態解析  
喜多英二（奈良県立医科大学細菌学教室）
3. 伝染病予防法改正に伴う動物由来感染症対応の方向性  
内田幸憲（神戸検疫所）

維持会員ニュース：

「ヘリコバクター感染モデルとしてのスナネズミの有用性」  
セアック吉富（株）

◎第59回研究会

日時：平成10年9月11日（金）  
場所：大阪大学医学部学友会館「銀杏会館」  
講演：受精機構の新たな研究展開と内分泌攪乱物質の生殖系への影響

1. 緑色蛍光蛋白質を組み込んだ遺伝子改変動物とその応用  
岡部勝（大阪大学遺伝情報実験施設遺伝子組換え研究分野）
2. 内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）が生殖へ及ぼす影響；特に、ヒト精子形成への影響について  
森千里（京都大学大学院医学研究科生体構造医学講座）
3. トリフェニルスズのラットにおける生殖毒性  
江馬眞（国立医薬品食品衛生研究所大阪支所生物試験部）

維持会員ニュース：

「動物施設及び飼育器材の滅菌消毒薬」  
日本クレア（株）

◎第60回研究会

日時：平成10年12月4日（金）  
場所：京都市勧業館「みやこめっせ」大会議室  
会員の研究発表：13題

1. TG動物飼育用ラック「ルフテンTG」の開発（第1報）  
斎藤正信<sup>1</sup>、大城匡豊<sup>1</sup>、銀一之<sup>2</sup>、  
○橋詰俊雄<sup>2</sup>（<sup>1</sup>大気社、<sup>2</sup>白銀工業）
2. LIG-1ノックアウトマウス受精卵・精子の凍結保存  
新比恵啓志<sup>1</sup>、浜崎雄二<sup>2</sup>、藤塚達也<sup>1</sup>、  
小林欣滋<sup>1</sup>、鈴木豊<sup>3</sup>（<sup>1</sup>田辺製薬・安全研、<sup>2</sup>マルゴ・リサーチ・サービス、<sup>3</sup>田辺製薬・創薬研）
3. 腫瘍細胞株の微生物汚染に関する検討  
中井伸子、河口千晴、名和孝二、小林忍、  
勝田義弘、宮崎安代、渡辺正孝（日本新薬・安全研）
4. サルおよびイヌからのHelicobacter属菌の分離と生物学的性状  
高橋恵子、余野清香、根縫弘子、大原眞代子、  
千葉博喜、境陽子、三日月勝見（塩野義製薬・

- ACセンター)
5. 定量的マイクロプレートDNAハイブリダイゼーション法を用いたHelicobacter属菌種の同定  
根縫弘子、高橋恵子、余野清香、大原真代子、千葉博喜、境陽子、三日月勝見(塩野義製薬・ACセンター)
  6. FLS (Fatty Liver Shionogi) -ob/obマウスの自然発生肝腫瘍  
曾我正彦<sup>1</sup>、稲垣秀一郎<sup>2</sup>、佐治久江<sup>3</sup>、耕田知恵子<sup>3</sup>、大原忠雄<sup>3</sup>、加藤研治<sup>2</sup>、平沢勉<sup>1</sup>、牧野進<sup>3</sup>(<sup>1</sup>塩野義製薬・医科研、<sup>2</sup>同・油日ラボ、<sup>3</sup>同・ACセンター)
  7. 尿管管間質病変における尿管結紮モデルの意義  
堀川洋子、竹中やよい、外野善弘、岡本宗裕、黒澤孝(大阪大・医・動物実験施設)
  8. 2系統のヘアレスラット、Ico:OFA-hr/hrおよびHWY:SIcラットの皮膚の性状、形態に関する比較検討  
大坂要恵、川野泰司、飯田晶敏(資生堂・医薬研)
  9. LIG-1ノックアウトマウスの皮膚病変  
小林欣滋、新比恵啓志、乾俊秀、鈴木豊<sup>1</sup>(田辺製薬・安全研、<sup>1</sup>同・創薬研)
  10. 大阪産野生マウスに発見された短尾突然変異遺伝子の染色体マッピング  
和田あづみ、中根良文、奥本正昭<sup>1</sup>、都築政起<sup>2</sup>(大阪府大・農、<sup>1</sup>同・先端研、<sup>2</sup>広大・生物生産)
  11. ラット遺伝連鎖地図の統合  
北田一博、加地澄子、芹川忠夫(京大・院・医・動物実験施設)
  12. 老化と脳内サイトカインの発現  
喜多正和、魏亜平<sup>1</sup>、伏木信次<sup>2</sup>、今西二郎<sup>1</sup>(京都府立医大・実験動物、<sup>1</sup>同・微生物学、<sup>2</sup>同・老化研)
  13. 哺乳動物のビューロマイシン感受性アミノペプチダーゼ  
山本好男、西克治、李堯華<sup>1</sup>、大久保岩男<sup>1</sup>(滋賀医大・法医学、<sup>1</sup>同・生化学第二)
- 特別講演：
1. 臨床試験実施に関する非臨床試験データの意義  
内田英二(昭和大学医学部第二薬理学)
  2. ICH Common Technical Document (CTD)  
Guideline on Registration of New Medical Products Status of CTD Safety Section  
河合睦文(リリーリサーチラボラトリーズ
- ジャパン)
3. JVS (juvenile visceral steatosis) マウスの原因遺伝子の探索  
早川純一郎(金沢大学医学部附属動物実験施設)
- ◎第16回総会及び第61回研究会  
日時：平成11年3月5日(金)  
場所：京大会館  
講演：実験動物;育種繁殖領域からの新たな展開
1. リコンビナント・インブレット系マウスを用いた研究  
西村正彦(名古屋大学医学部附属動物実験施設)
  2. サル類の医学生物学分野における利用のための人工繁殖  
和秀雄(大阪大学人間科学部)
- 維持会員ニュース：  
「CD(SD)IGSラットの紹介」  
日本チャールス・リバー(株)
- ◎第62回研究会  
日時：平成11年6月11日(金)  
場所：大阪大学医学部学友会館「銀杏会館」  
講演：生殖発生毒性試験を考える
1. 毒性試験における精子検査の意義と方法  
川島邦夫(国立医薬品食品衛生研究所大阪支所)
  2. ヒトの先天異常研究における動物実験の意義  
谷村孝(近畿大学ライフサイエンス研究所)
- 維持会員ニュース：  
「トランスジェニック・ノックアウト技術サービス」  
日本エスエルシー(株)
- ◎第63回研究会  
日時：平成11年9月10日(金)  
場所：大阪大学医学部学友会館「銀杏会館」  
講演：
1. Genetic Engineered Miceと動脈硬化研究  
平野賢一(大阪大・院・医・分子制御内科)
  2. 糖尿病血管症へのトランスジェニックアプローチ  
山本博(金沢大・医・生化学第二)
- 維持会員ニュース：  
「Transmission Pattern of B-virus Infection in Group-caged Juvenile Cynomolgus Monkeys」  
(株)イナリサーチ
- 以上についての資料の請求等は、各事務局へお願いいたします。